

# 広報



# あさひ

No. 228

昭和49年  
8月10日発行

創刊20周年特集号



ひめじまじ

町の木

町の花、つつみ

# 未来への夢 躍進を期して

## 足跡をふりかえる

日本アルプスの連山が遠く北に走り、やがて濤々たる日本海に没しうとするところ、小川の清流をうけて、たわわな実りの沃野のひらけるこの地に、旧制の一町七ヶ村が一つの町、朝日町として新生の第一歩を踏み出してから、こゝに満二十年の記念日を迎えました。申すまでもなく日夜象徴として仰ぐ朝日岳の名をとったものでありますが、同時にまた東雲をついてさし昇る太陽のように、前途に対する限らない願いをこの町名にこめて大同団結をしたものであります。それぞれに長い伝統をもつ八自治体が一体となり得た背景には、時代を見通した先輩たちのはかりしれない、悩みと努力の積みかさねがあったのであり、この際あらためて敬意を表しなければなりません。さて合併後の発展はめざましいものがありました。いちいち枚挙にいとまのないところではあります。境川発電所の開設。統合中学校の完成。

保育所の増設。園場整備事業の発足と進捗。小川用水の一本化。国道八号の開通や町界道の大中な改良。住宅団地の造成。泊病院、裁判所、郵便局、警察官派出所、法務局出張所、職業安定所分室などの新築。漁港の整備。災害復旧等と防災施設。県立自然公園の設定。福祉センターの新設など各種公共施設とならんで医療、保健衛生の充実など福祉行政も大きく伸びております。しかしながら順風に帆をうけたように高度成長と繁栄を謳歌してきた我が国は今や大きな反省をすべき時機に直面しております。朝日町としても充分このことに留意をしながら前進しなければなりません。

まず町のおかれていた自然的地理的な立地条件を前提としてよく認識し、この上に立って町民の生活環境、教育条件、産業基盤の整備を進めることが柱であります。このため先般、昭和六十年を目標とした朝日町総合計画を樹立いたしました。美しい自然の住みよい町、健康で生きがいのある文化の町、希望に満ちた豊かな町を三つのスローガンとして掲げ、その具体的な内容を計画的におしすすめるように決定しております。

二十周年の一里塚にあたり、思いをあらたにして町勢発展のために邁進したいと考えておりますが、何とぞ各位の一層のご指導とご協力を心からお願ひ申し上げる次第であります。



2~3代町長  
本村本松



初代町長  
長吟

歴代町長



朝日町長  
中川雍一

朝日町二十周年にあたり

朝日町長 中川雍一

朝日町の中心である泊町は、寿永三年(一一八四)、北陸宮を擁して平家追討に立上った木曾義仲が、栗津で戦死するや、宮崎城に拠っていた一族が木曾に逃れ、一部はふもと和倉の地に土着して地元民と共に魚撈に従事し、次第に人口も増加して宿場町としての泊町ができた。

わが朝日町には数千年の昔から人類の生活が営まれていたことが、多くの遺跡群の発掘によって証明されている。

朝日町の中心である泊町は、寿永三年(一一八四)、北陸宮を擁して平家追討に立上った木曾義仲が、栗津で戦死するや、宮崎城に拠っていた一族が木曾に逃れ、一部はふもと和倉の地に土着して地元民と共に魚撈に従事し、次第に人口も増加して宿場町としての泊町ができた。

- 昭和二十九年八月一日  
泊区域七ヶ村合併し朝日町発足
- 野中村合併、町章制定
  - 第一回町民体育大会実施
  - 三十年
  - 地方財政再建団体に指定
  - 組合立泊病院発足
  - 町広報「あさひ」第一号発刊
  - 第一回朝日町社会教育大会実施
  - 三十一年
  - 宮崎自然博物館できる
  - 三十二年
  - 第一回朝日町成人式を挙行
  - 朝日町農業センター開設
  - 越中宮崎駅できる
  - 三十三年
  - 大家庄小学校にプールできる
  - 山崎小学校改築
  - 本村本松町長就任
  - 第十三回国体野球朝日町で開催
  - 三十四年
  - 各支所を廃止す
  - 朝日町立泊病院発足
  - 三十五年
  - 境中、泊中統合、新校舎建築
  - 三十六年
  - 泊病院に新産児室新設
  - 三十七年
  - 町立小中学校完全給食の実施
  - 三十八年
  - 桜町に町営住宅団地造成
  - 町営プール完成
  - 文化財調査委員会できる
  - 塵芥焼却場建設

### 朝日町の生たち

### 朝日町二十年の歩み

おもなことから

# 大いなる わが町の

20年の

合併二十周年を迎えて

議会議長 酒井 栄



議長 酒井 栄

歴代町議会議長



1. 2. 4代  
清水伝平氏



3代  
米田吉二氏



5代  
小坂満氏



6代  
上沢源次氏



7代  
金井憲治氏



8代  
上島栄作氏

朝日町が誕生してこゝに二十周年を迎え、その喜びを町民のみならずと共に分けあひますことはまさに世

紀の喜びであります。おもえば昭和二十九年八月一日に泊町、山崎、大庄、野中、南保、五ヶ庄、宮崎、境村の一町七ヶ村が合併し、人口2万余の農業を主体とした一見して変りばえのない町でありましたが、その後数多の困難を克服し、いまや名実ともに農工商が一体となり県内最東端に位置し富山県行政の拠点として重要な町に面目を一新して、こゝに合併二十周年の意義ある日を迎えることができたのであります。これもひとえに合併の偉業をなしとげられ新町建設の基礎を築かれた先輩諸賢の御努力と行財政上の施策によるしきを得られた歴代の町長をはじめ、町議会の皆様及び町民各位の絶大なる御協力によるところと、深く感謝と敬意を表するものであります。

のわが朝日町の果すべき責務はまことに重かつ大であります。しかも今日の国及び地方を通ずる行財政の窮乏は深刻であります。町当局におかれましては、英知を集めて経費の効率的使用を図り、恒久的な新都市計画のもとに諸施設を充実し、しかも円満な財政運営によつてこの困難を克服し、諸先輩の御遺志をはずかしめないよう住民の負託にこたえていただきたく切に望むものであります。特にわが町は地理的に見ましても県行政の一環として極めて重要な位置にあり、その将来もまた実に洋々たるものがあります。町議会といたしましては、愈々研鑽を積み、町民各位と共に町勢発展に微力をさし、何卒これからも限りなき御指導とたゆまぬ御協力をお願い申し上げます。

△朝日町発足当時の町議会議員と関係職員▽



近年わが国の社会情勢の急激な進展にともない、地域社会をとりまく環境もまた極めてきびしく変わって参りました。成長期を迎えたわが朝日町におきましても産業構造の変化、日常生活圏の拡大は更に行政需用を大きく多様化させ複雑化させてまいります。このようなきびしい諸情勢に対処して行くためには、基礎的な地方公共団体として

- 三十九年 理科教育センターの設置
- 東京五輪聖火朝日町を通過
- 基盤整備事業の開始
- 四十年 北陸線富山糸魚川間複線電化す
- 国道八号線開通す
- 四十一年 本村町長急逝される
- 四十二年 中川雅一町長に就任す
- 朝日町開発公社設立す
- 朝日町管内電話自動化される
- 南保公民館できる
- 浜山玉造り遺跡発掘調査開始
- 四十三年 泊病院鉄筋四階建築完成す
- 城山宮崎地区県定公園に指定
- 西町勤労者住宅団地造成
- 四十五年 スクールバス運行開始
- 城山に北陸宮墳墓造営
- 松涛町勤労者住宅団地造成
- 四十六年 新川広域圏事務組合発足
- 第一回青年のバス研修会実施
- 理科センターを拡充して教育センターと改称
- 上朝日橋できる
- 県植樹祭、池の原地内で行われる
- 四十七年 すぐやる保の新設
- 勤労青少年体育センター、福祉センター完成
- 文化財愛護モデル地区、国指定
- 下山新、不動堂遺跡発掘調査
- 民俗芸能発表会を開催す
- 四十八年 城山、宮崎地区を中心として県立自然公園の指定を受ける
- 泊駅改築完成す
- 城山に宮崎太郎供養塔できる

# 町花町木の選定

町花につつじ  
町木にひめこまつ

町政二〇周年記念事業の一つとして、朝日町を象徴する「花」と「木」の選定について町広報などを通じて一般から募集していましたが、去る六月十四日町長、外関係諸団体の代表者、専門家など二十名からなる選定委員会が開かれ応募された十数種類の中から左のもの町花・町木として選ばれました。

町政二〇周年記念事業の一つとして、朝日町を象徴する「花」と「木」の選定について町広報などを通じて一般から募集していましたが、去る六月十四日町長、外関係諸団体の代表者、専門家など二十名からなる選定委員会が開かれ応募された十数種類の中から左のもの町花・町木として選ばれました。

親しまれる。  
・気品が高く、しかも強く栽培しやすい。  
・良質の用材としても利用度が高い。  
（表紙参照）

### ・注

1. つつじは、庭園の花の代表として親しまれ公園などに必ず見かける花でありサッキなどと共に入方の庭園で植えられている。  
2. ひめこまつ（姫小松）は、一般に五葉松といわれるなかまの一種で、広くこのあたりに自生し庭園にも多く植えられている。盆栽などに作られるものは四国九州など、南方系のもので、これは同じ五葉でも葉裏が白いが、ひめこまつは、葉の表裏ともにあおく葉も短かい。実生でもよく育つが、移植やさし木は梅雨時を過ぎると難しいと言われている。

### 町花 つつじ

#### 選定の理由

・朝日町の山野にいろいろの種類のもが自生し、今までも親しまれていて栽培しやすい。  
・種類も多く花期も長く美しい。  
・庭木にも盆栽にもなる。

### 町木 ひめこまつ

#### 選定の理由

・朝日町に自生、庭木、鉢植として

泊中・年本村雅宏君の

## ●朝日町の将来●が入選

記念行事の一環として、一般及び中学生から、朝日町の将来を論ずる論文を募集しておりました。

一般応募者数篇、中学生応募者十数篇の中

から、論文審査委員会によって厳正な審査を行いました結果左の方々が入選とされました。なお、中学生の部の入選作は本号誌上で紹介いたします。

一席の部  
一席（諸当なし）

# 記念事業

- 二席 入江 久
- 大井才次郎
- 中学生の部
- 入選 泊中一年 本村雅宏
- 佳作 泊中二年 内山邦明
- 佳作 泊中三年 山本真弓
- 佳作 小川中三年 関口仁志
- 佳作 小川中三年 杉本智恵美

### 朝日町発足の祝賀行事と

### 十周年記念の祝賀行事

なつかしい

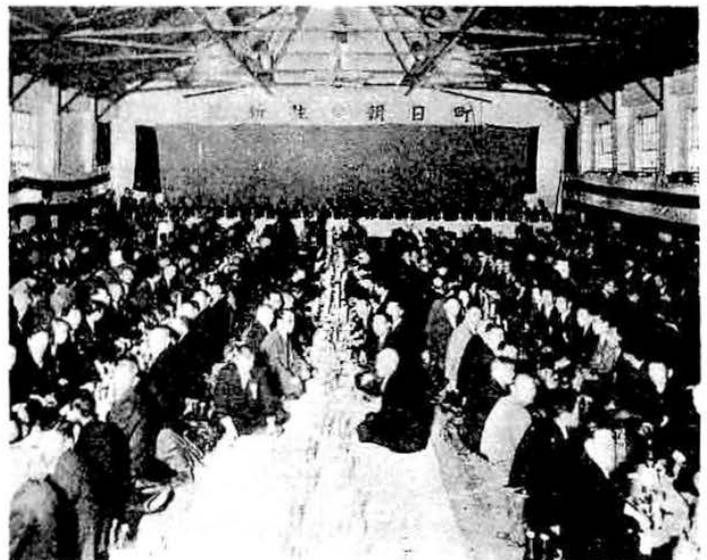


左上は泊小学校講堂で行われた10周年記念式典のものと。左中は朝日町消防団による10周年記念祝賀パレード



< 旗 行 列 >

→ 八町村合併祝賀会 ↓



# 記念事業の圧巻 朝日町現代美術展

△富山県民会館美術館における  
オープニングカットのようす▽



<体育センター外側正面に掲げられた看板>

町政二十周年を記念し町在住及び出身の美術家諸氏に近作提供を依頼、物故作家も含めて絵画、彫刻、書などの作品約九十点を、六月二十二日～二十五日富山展(富山県民会館)、朝日展(六月二十九日～七月二日、朝日町勤労青少年体育センター)に分けて大展開覧を開催し他市町村をかつ目せしめ大いに好評を得ました。



<富山会場の風景>

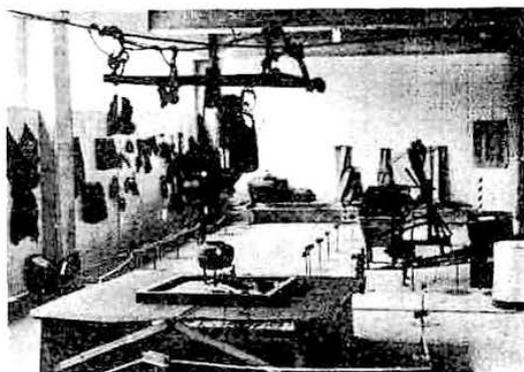
△朝日会場▽



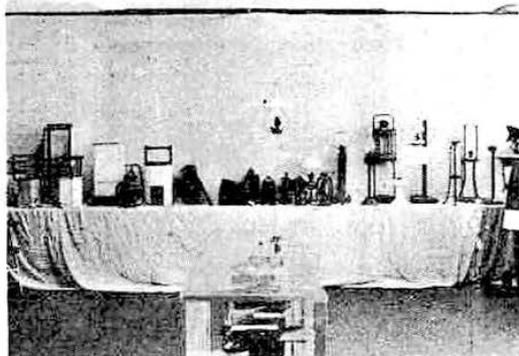
## なつかしい 心のふるさと 郷土民俗資料展

現代美術展と共に福祉センターを主会場に郷土民俗資料展も開かれ、明治百年記念に展示された資料にさらに数多くのものを加えて総数二百八十点にのぼる資料が展示され閲覧された方々に深い感銘となつかしみを与えました。

△民俗資料展  
△センター階下会場▽



△福祉センター第二会場▽



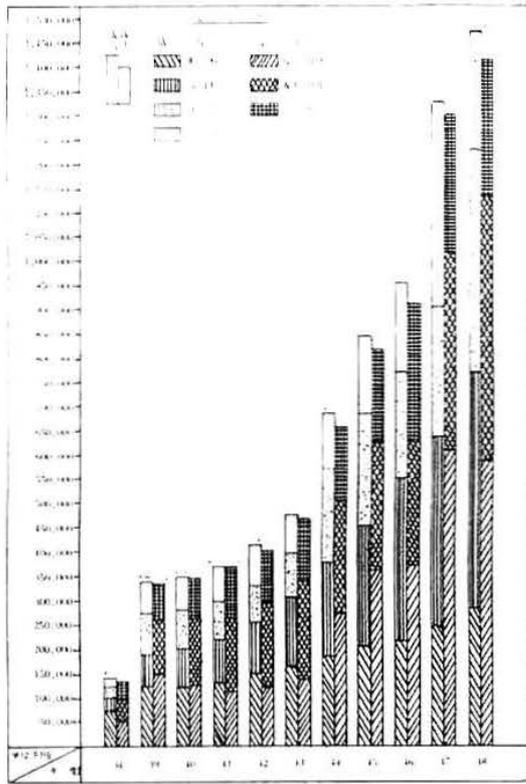
△福祉センター第三会場▽



# 20年のうつりかわり

## 地方財政再建団体指定から 今日までの予算規模

町財政も  
こんなにふえました。



産業基盤施設の整備などに要する土地の取得を図るを目的として財団法人朝日町開発公社が設立された。

また、昭和四十六年四月社会経済の急激な伸展に伴い住民の行政需要の多様化と高度化し、これらの要望実現を目的として、魚津市、黒部市入善町、宇奈月町を一丸とする新川広域圏事務組合が発足した。

### 朝日町総合計画策定

さらに昭和四十八年十二月自然環境の保全、生活環境の整備などの課題を解決するため人間最優先を基本理念として、朝日町総合計画が策定された。

### 新町建設計画策定

新朝日町が発足して五年、住みよき明るい町づくりを目的として、新町建設計画の現況編と計画編が策定された。

### 財団法人

### 朝日町開発公社の設立

昭和四十二年には、生活環境施設、



## 町広報 月刊「あさひ」 228号を数える

町広報も、昭和32年6月第1号創刊以来、100号200号の記念特集号を発刊本号を以て228号を数えその足跡には町史の縮図とも言うべき資料の重要さを痛感させられる。

会長には上町出身の玉水幹人氏(日東鋳業社長)が就任されている。



昭和三十八年六月、東京都内在住の朝日町出身者一六〇名によって、「東京朝日会」が結成され、都内在住者相互間の親交はもちろん郷土との連絡交流に大いにその結成の意義を發揮している。

## 東京朝日会の結成

在都同郷者相互の親睦と郷土との交流

## 朝日町議会二十年史

一、朝日町議会の組織

昭和二十九年八月一日

小選挙区制議員定数三六人

○常任委員会

(一)総務委員会 八人

(二)文厚委員会 九人

(三)建設委員会 九人

(四)農林委員会 八人

(五)商工水産委員会六人

昭和二十九年一月二〇日

野中村合併により議員定数四〇人

昭和三十一年八月七日現在

行政区画特別委員会設置

昭和三十一年九月八日

朝日町議会委員会条例の一部改正により常任委員会の名称変更

(一)総務委員会 一〇人

(二)文厚委員会 一〇人

(三)産業委員会 一二人

(四)経済委員会 八人

昭和三十三年四月一日

大選挙区制議員定数二十四人

昭和三十三年九月一日

朝日町議会事務局設置

昭和三十三年九月一八日現在

総合開発特別委員会設置

昭和三十三年九月一八日昭和三十四年一月一日

黒部市建設特別委員会設置

昭和三十三年九月二〇日

朝日町議会委員会条例の全部改正により常任委員会の名称変更

(一)総務委員会 六人

(二)厚生委員会 六人

(三)産業委員会 六人

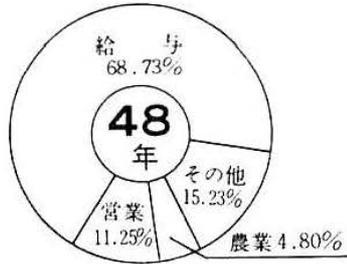
# 税務 二十一年の うつりかわり

合併当初は税務課であったが、合併の翌年五月財務課と合併して財政課となり、三十八年には再び税務課となった。

また納税協力は当初五町内であったが現在六十二町内に及んでいるなお職業別総所得額はつぎのグラフのとおりである。

総額 1,628,815千円

総額 6,786,856千円



## 金庫事務

### 朝日町金庫

#### 制度の推移

昭和二十九年八月一日、朝日町が発足してから公金の取扱事務について

## 消防

### 消防団二十年間の活動

#### 科学消防と救急活動

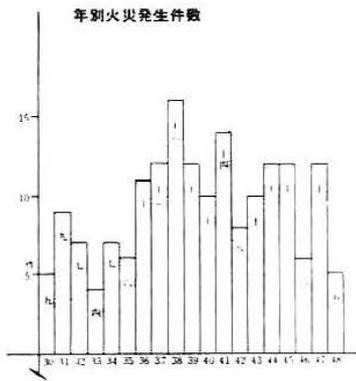
#### 婦人消防隊も活躍

ては、収納事務は北陸銀行泊支店に預金口座を設け、支払事務は、収入役が窓口において直接、債権者に現金を支払ってききました。

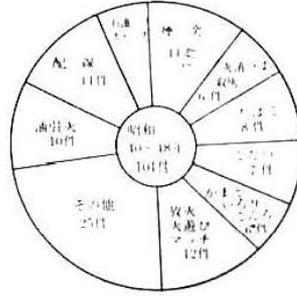
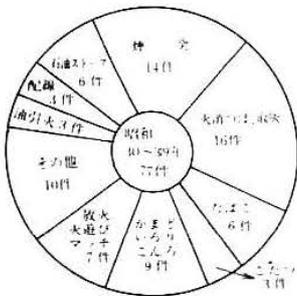
昭和三十九年四月三種類の金融機関を設け、収納事務については各金融機関、支払事務は現金支払証を廃し、当該金融機関を支払人とする小切手振り出しによる方法に改正、更に昭和四十二年四月債権者へ小切手振り出しと、公金振替書の交付により(債権者へ銀行振替)債務の履行の処理がなされ現在に至っている。

昭和二十九年八月一日町村合併と同時に朝日町消防団が結成され初代団長に古市繁太郎氏が就任、その後三十八年一月鹿熊正氏が団長に就任現在に至る。その間社会情勢の発達に伴い消防力も近代的な科学消防へと発達し消防自動車の更新、水利についても当時皆無であった消火栓が現在百六十八ヶ所となり貯水槽も十一ヶ所を増設された。

また移動無線及び携帯無線等の整備、さらに近年交通事故の多発に伴い昭和四十五年には救急車が配置された。



#### 原因別火災発生件数



△訓練に励む赤川婦人消防隊▽



△救急態勢▽

優秀消防団の表彰を受けております。また婦人消防隊は三十二年七月に赤川婦人消防隊が結成され、その後四十六年、柳田、不動堂、四十七年越 小更、羽入にそれぞれ結成され地域防災のために大いに活躍されています。

- (四)建設委員会 六人 昭和三十四年六月二十九日、昭和四十一年八月二十八日
- 海岸浸蝕特別委員会設置 昭和三十七年六月二十九日、昭和四十一年八月二十八日
- 工場誘致特別委員会設置 昭和三十八年一月二十六日、昭和三十八年四月一日
- 豪雪対策特別委員会設置 昭和三十八年五月十三日、昭和三十九年三月三十一日
- プール建設特別委員会設置 昭和三十九年六月二十四日、昭和三十九年八月二十六日
- 朝日町合併十周年記念行事特別委員会設置 昭和四十一年二月二十三日、昭和四十三年七月三十日
- 泊病院改築特別委員会設置 昭和四十三年四月一日
- 朝日町議会委員会条例の一部改正により常任委員会(一部)の名称変更
- 厚生委員会を文教厚生委員会に改める。
- 昭和四十三年十一月六日、昭和四十五年八月二十八日
- 山村振興特別委員会設置 昭和四十三年十一月六日、現在
- 開発公社特別委員会設置 昭和四十五年三月二十三日
- 朝日町議会議員定数二十一人 昭和四十五年九月三日
- 朝日町議会委員会条例の一部改正により常任委員会の名称変更
- (一)総務委員会 七人
- (二)文教厚生委員会 七人
- (三)産業建設委員会 七人
- 昭和四十八年八月十一日、昭和四十八年九月二十日
- 企業誘致調査特別委員会

# 生活と福祉

## 人間最優先の政策

### 住宅難の解消

#### 住・宅

昭和三十七年から四十一年にかけて桜町東部地区に約五〇戸の町営住宅を建設し、引続いて泊駅前西部に勤労者住宅生活協同組合とタイアップして、五〇戸の住宅を建設、さらに昭和四十五年から三カ年計画で大層地内を中心に約百戸の住宅を建設し、松涛町団地の造成を行い住民の住宅難の要望にこたえた。

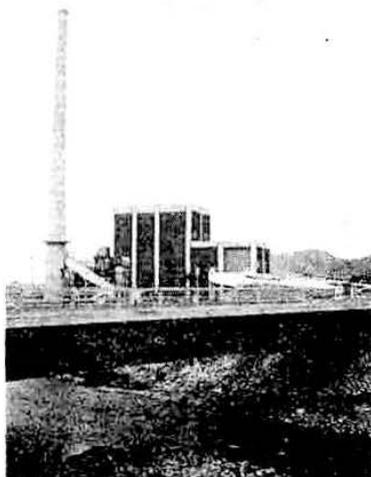


△上は西町団地  
右は松涛町団地▽

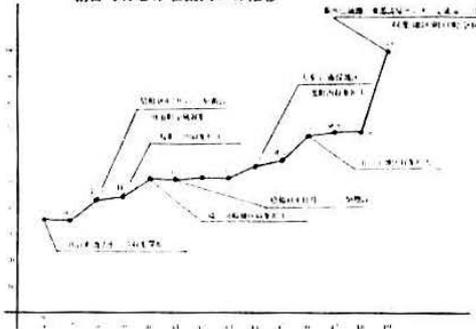
#### 衛生

#### ゴミ収集と し尿処理

清掃事業……ゴミの収集については昭和三十八年六月一日一回当り五五屯処理能力の新焼却場が完成、昭和三十九年四月に収集車一台購入、昭和四十一年十月に五、〇屯の処理能力を増設一日の処理能力を十、五屯



朝日町のごみ収集人口の推移



#### 保 育

#### 安心して 働けるよう

管内各地区における保育所建設の要望も強く、当時は泊第一、第二、桜町、赤川の四ヶ所であったがその後続々と増設され現在は十三ヶ所に設置され、保育児も九三〇名に達している。

△写真は近代的設備を誇る中部保育所と、保育風景▽



#### 年 金

年金関係……昭和三十六年四月から国民年金制度が実施されて以来加入者は、五、七三三人、福祉年金受給権者は、一、五四五人で、拠出年金受給権者は三六九人となっている。

#### 国民健康保険

国民健康保険関係……当時各地区(旧村)に国民健康保険が開設されていたが昭和三十年四月に五ヶ庄地区が加入して全町地区が加入

#### 診 療 所

直営診療所……当時五ヶ所で開設していたが現在四ヶ所で開設(境、笹川、宮崎、山崎)

△写真中央は東部清掃センター  
左はゴミ収集車▽



### ホームヘルパーの設置

昭和四十三年に制度化され翌年家庭奉仕員一名を配置、本年四月さらに一名増員して、一人暮らしの老人家庭や、寝たきり老人の身の廻りや相談につとめている。



△ホームヘルパー▽

## 社会福祉団体

### 社会福祉団体の活動

朝日町社会福祉協議会、町遺族会、町身体障害者協会、町母子福祉会など、自主的な活動を助成しており、また、町善意銀行も開設されている。

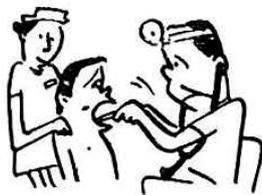
## 健康づくり運動

住民の疾病率が県下一である原因を調査した結果、自分の健康を守る意識を身につける目的で開始した。

特に医療費の多い境地区を昭和42年4月から3ヶ年にわたり、体位測定、検尿、視力、血液型、血圧測定、保健指導、食生活改善講習会などを実施、その後、山間地区の蛭谷、

羽入、谷地区、農村地区の藤塚、横道、下野地区、をまた町部では、泊本町商店街をなど対象に実施。

簡易水道事業(町営、小規模水道含む)……当時4ヶ所で実施されていたが、現在29ヶ所で実施、給水人口、9,380人となり、町全体の47.9%にあたります。



健康を守る  
意識を  
身につけるために



体位測定

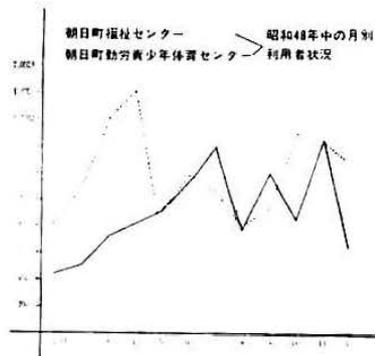


治療の

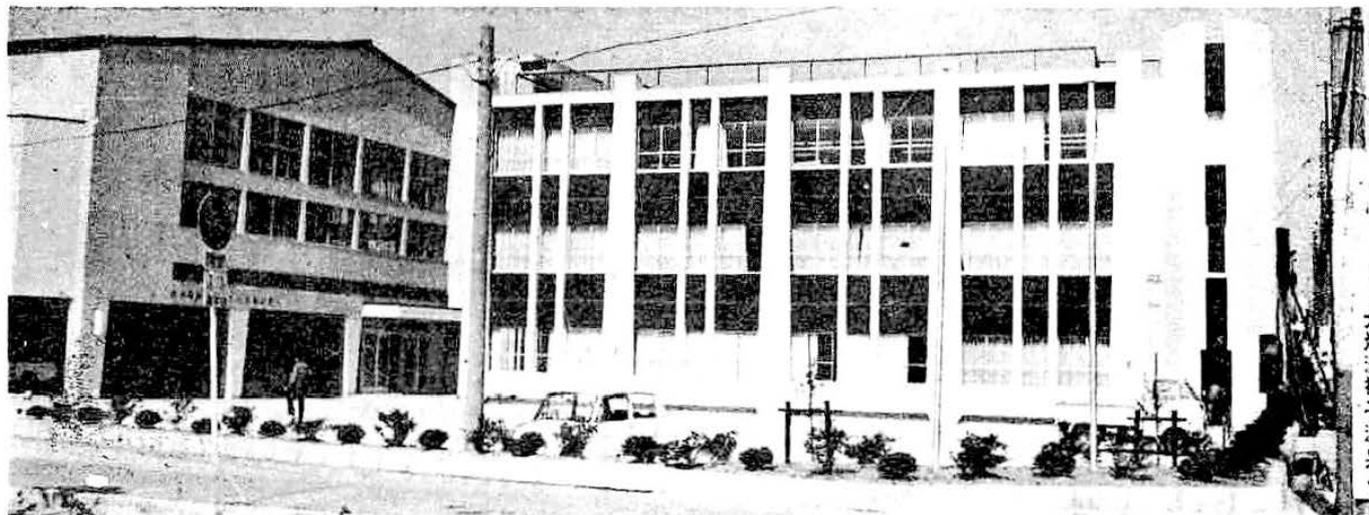
## 朝日町勤労青少年体育センター 朝日町福祉センター

昭和47年10月にオープンした朝日町勤労青少年体育センターと共に町民の体力づくりや、会合、学習、憩いの場として年を追って利用度が高まり町民の文化センターとして喜ばれている。

(右のグラフはオープン以来の利用者率の推移)



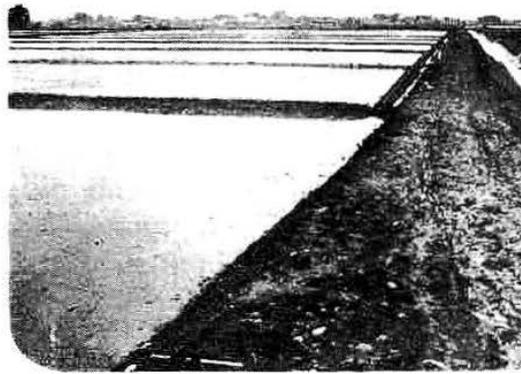
昨年一年間の利用者率



# 伸びゆく

## 朝日町の産業

合併二〇年の経過の中で朝日町産業も大きく移り変わり農業においては食糧需給動向の変化に伴い、基幹作物である米作りが増産体制から生産調整へと、また今年度から稲作転換施策が打ち出されております。



△基盤整備の完成した農地▽

# 観光

の保全と  
産業の振興を

△大型機械を導入しての農耕▽



朝日町としては「うまい」米作り(あさひ米)を推し進めながら土地基盤整備と相い関連し第二次農業構造改善事業の指定を受け農業近代化事業を推進しております。また一方、中核農家育成のため、

△威力を発揮する大型コンバイン▽



△南保和牛肥育センター▽



米作りを基幹とする中でそ菜、園芸、畜産団地の造成がはわれつつあります。

なお、山村振興事業の一環として南保和牛生産組合と朝日中央農協が事業主体となって、和牛の一大生産団地の造成をめざして、南保和牛肥育センターが建設されました。



林業については美しい自然を保護しながらさらに計画的な造材の実施と共に林道網の整備を重点とし、経済活動範囲の拡大をはかるため海拔三百米地点を通過する峰越林道の開設に努めておりますがその利用は農林業の施策を容易ならしめ、自然量観を利用した、レクリエーション基地の造成などその利用に大きな期待が寄せられております。

△四十七年五月、環境緑化推進をめざして、富山県植樹祭が池の原地内において、旧下新川郡内の各団团长及び町内小中学生三〇〇名によって盛大に行われた。▽



△完成した棚山林道▽

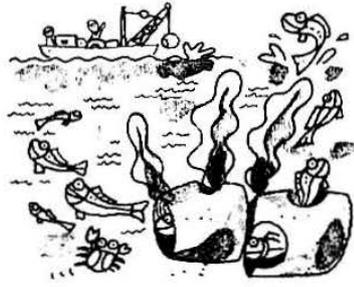
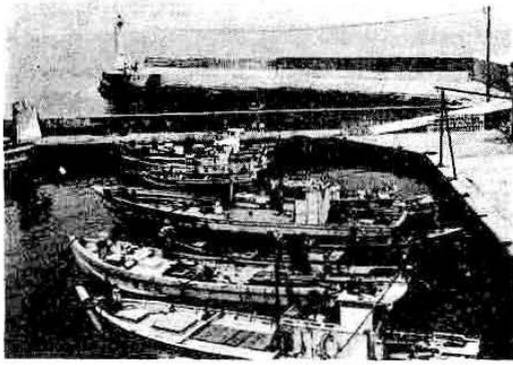


△三枚橋地内におけるビニールハウスのそ菜園芸▽



△天皇杯を獲得したチューリップ日本一の沢田行一氏を生んだ舟川新のチューリップ栽培のようす。▽





水産業

# 産業と

自然環境



△右は宮崎定置網、このようにして新鮮な魚が食卓へ▽  
△上は漁港として補給基地としてその重要性を増しつつある宮崎漁港▽

水産業の振興については宮崎漁港の第四次整備計画の完成と相まって、昭和四十八年度より五ヶ年に亘り、第五次漁港整備計画として、二億八千万円の事業費で内港の整備等が施されることになっております。当漁港は地元漁業の発着基地のみならず、県内操業漁船の漁具、水、燃料などの補給基地として、また、波など危険時における避難港として大きな役割を果たすものです。漁獲量については戦後減少の一途をたどっており、かつては活況を呈していた赤川から境までの近海漁業も急激な不振を示しているため、町では漁港の整備と共に、養殖、観光漁業を積極的に進めています。

## 比類なき美しい自然環境を 観光 わたしたちの手で守ろう

### 朝日県立自然公園

自然の宝庫と称賛される朝日町は昭和48年3月13日付で宮崎～小川温泉～朝日岳まで 9.623HAの区域が、朝日県立自然公園として指定を受け、年次別整備計

画に基づき、逐年その施設が完成しつつあり。交通網の整備と相まって、常緑景勝の地として、広く各階層のレクリエーション基地として利用されております。

<わが町の象徴朝日岳の勇姿>



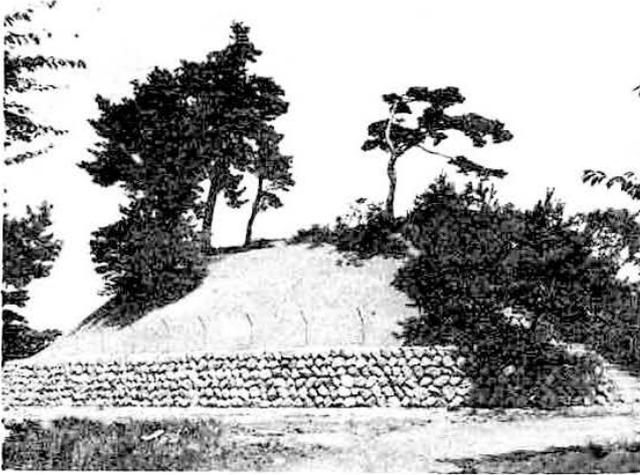
△馬りよう山頂上から見た朝日町の中心▽



△城山頂上から見た宮崎海岸▽

観光

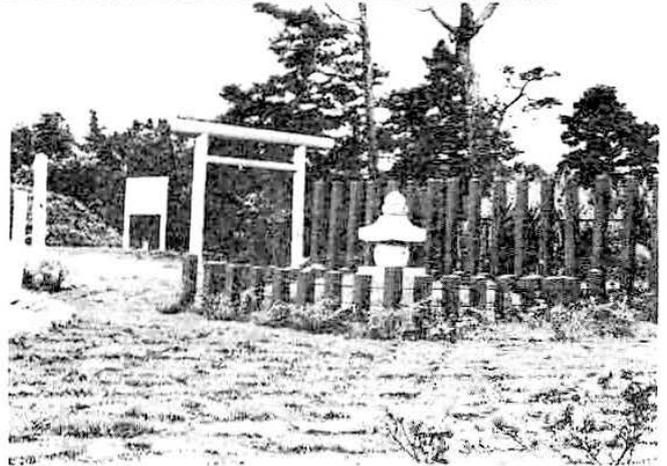
<国指定天然記念物 鹿島樹叢の遠望>



<宮崎城本丸跡 (県指定史跡)>



△近代化した本町商店街▽



<三の丸跡にできた北陸宮墳墓と  
宮崎太郎の供養塔>



<簡易ロープウェイのできた  
三峰スキー場>

<小川温泉 天望閣>



<小川元湯 ホテルおかわ>



<宮崎海岸海びらき>



△名物灰付わかめ干し▽



昭和44年8月9日未明、朝日町一帯を襲った集中豪雨は、境、笹川地区に最も大きな被害を与え、被害総額16億円にのぼる町有史以来の災害を残した。

以来今日までの河川林道等の工事の大部分は大かれ少かれ災害復旧に関するものと言

### 建設



ってよいでしょう。

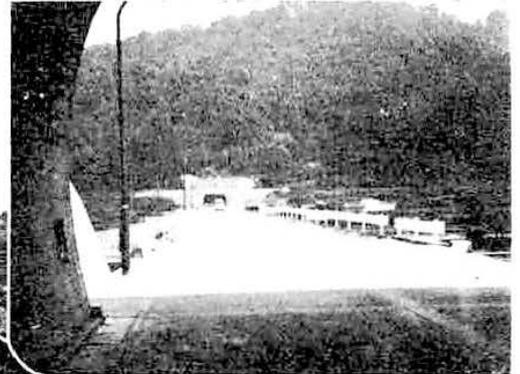
町では苦しい予算の中で年を追ってこれらの工事を着々と実行し完成させてきました。

また、都市計画に基づく道路の新設工事や拡巾改良舗装なども着々と進められております。

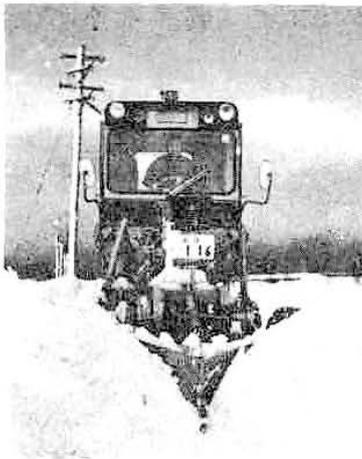


<集中豪雨に押し流された境小学校宿直室 (44.9) >

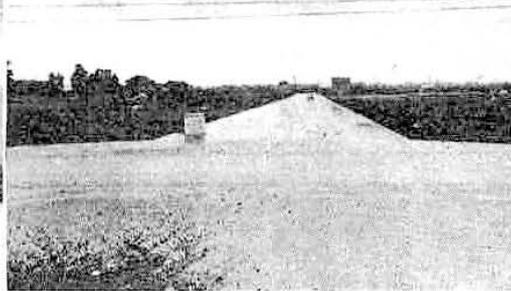
<北陸本線複線電化 (41.12) >



<完成開通した国道8号線城山トンネル (40.9) >



<豪雪で活躍する除雪車 (44.1) >

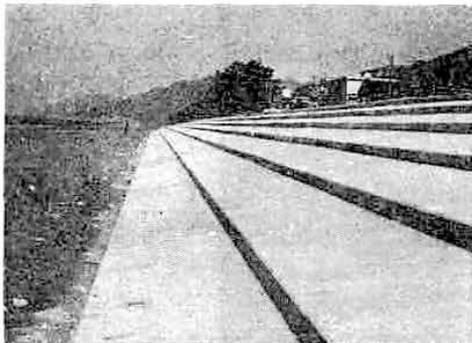


<草野~大家庄線バイパス開通 (41.10) >



<完成した笹川神向橋 (46.4) >

<完成した階段式防波堤...宮崎 (49. ) >



<効果をあげる離岸堤...草野>

<金山~舟川新線の改良 (47.5) >



△改修進む木流川と完成した木流橋▽



△完成した泊環状線 (48.5)▽



### 町立泊病院

## 近代的偉容と 内容の充実を誇る 総合病院

戦後いくつかの変遷を経て昭和二十九年八月町村合併後昭和三十四年一月朝日町立泊病院として発足、総合病院として病床一二〇数を備え、三十六年に産児病棟の増設、四十二年に医師住宅の建設、四十一年から着手した鉄筋コンクリート四階建の増改築工事が四十三年に完成、こゝに近代的偉容と共に充実した、総合病院が出現したが数年間苦し

い経営が続いた。しかし、現在では糸魚川以西、黒部以東における唯一の総合病院として順調にして着実な歩みが続けている。

在町官公署のうつりかわり  
昭和三十年代の後半からの高度経済成長による急激な社会情勢の進展は在町官公署にも大きな変化をもたらした。  
新設、拡張、あるいは縮小など、町の行政面にも微妙な影響を与えながら大きく変遷していった。

### 今昔二十年

△西町に移転新築された、朝日警察官派出所(41.1)▽



<駅前通りに移転新築された  
泊郵便局(43.8)>

△松涛町に移転新築された、魚津公共職業安定所朝日分室(46.2)▽



△近代的に改築された  
泊駅(48.3)▽



<西町に移転新築された  
富山地方方法務局朝日出張所  
(43.1)>

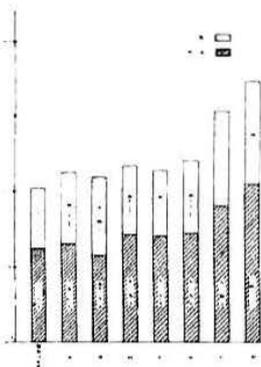


<新築併設された  
富山家庭裁判所朝日出張所(47.1)>



<池の中央に立  
つモニウマン>  
(日展作家柚月芳作)

泊病院利用者



学校教育



教育長  
藤条昇巧

教育

歴代教育長

歴代教育委員長



教育委員長  
広川親義

昭和二十九年八月一日朝日町発足と共に管内の各小学校は町立学校と改称、翌年七月教育委員の選挙が行われ、初代教育委員長に山田蕃氏、教育長には大平勝雄氏が就任されました。

以来二十年、その間、町では人間尊重、教育最重点の理念に基き、山崎小学校の改築を初めとして境中学校と泊中学校の統合による、泊中学校新校舎の建築、小中学校の完全給食の実施、五ヶ庄小学校講堂の改築、泊小学校グラウンドの新設、スクールバスの運行、教育センターの設置、複式解消のための町単教員の採用など、

また学校プールの建設については大家庄小学校プールを筆頭に、南保山崎、蛭谷分校等のプールが建設されており、本年は徳川小学校にもプールが新設されています。

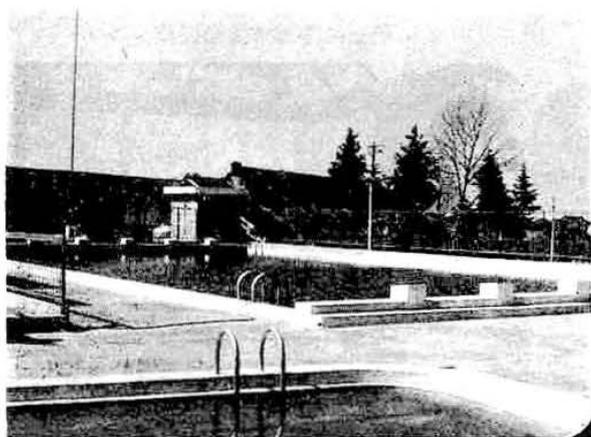
なお、最近では統合中学校の建築計画も着々と進められ、既に南保地区内に必要面積の敷地も確保されています。

学習設備の充実については、近年創校百年を迎えた小学校も少くなく、この記念事業として民間の寄贈による学習設備の充実もなされていますが、町としても、総需要制の施策をふまえながらも、学習効果の高率化を目ざして教育機器の充実に力を注いでいます。

さらに、県としてはさきに決定された泊高校の移転新築計画により既に、国鉄北陸線南側平柳地区内に体育館が建築され、校舎の建築も着々と進行しております。

境中学校を統合して新築された泊中学校(39.2)▽

△設置された教育センターとそのサービス車(46.7)▽



△大家庄南保に次いでできあがった山崎プールと(44.7)▽

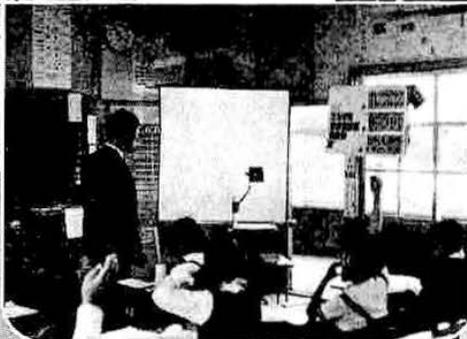
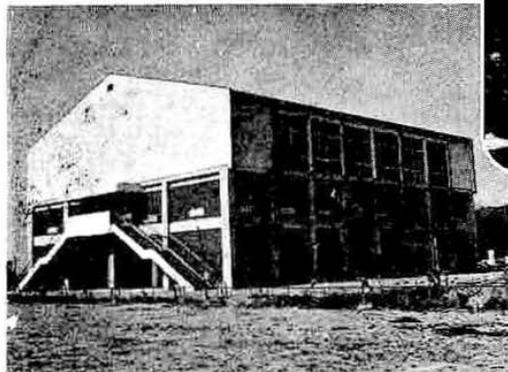


△完成した泊高等学校校体育館▽

△蛭谷分校プール(46.7)▽



△設置された教育センターとそのサービス車(46.7)▽



↑<教育機器UHPを利用した学習指導(境小)>

<創校百周年を迎えた泊小学校>→



社会教育  
文化財

昭和三十年に、朝日町で初めて第一回社会教育大会を開催して町民に対する意識の高揚をはかり、以来二十年、社会教育の推進母体である公民館活動の充実強化を中心に、社会教育関係諸団体の育成強化を図ってきました。

激変流動する今日の社会情勢の中で最も必要なのは社会教育であるとさえ極言されており、その困難さの中で、国や県の施策に応じ各地区公民館を中心に青少年、婦人、一般人、あるいは高令者に対する各種学級講座の開設、多くのスポーツ団体の育成に伴うスポーツの奨励、文化団体の育成、図書館の内容充実など社会教育の振興策を推し進めてきました。

また、文化財については、調査委員会を設けて、調査と指定を行い、昭和四十七・八年にわたり国の文化財愛護モデル地区の指定を受け町民に対しその認識と愛護思想の普及につとめ大きな成果をあげました。



<町民全体の親睦を図る町民体育大会>



<町民待望の町営プールの賑わい>



<南保公民館で開かれた三県公民館大会>

<リフトの設けられた三峰スキー場のスキー教室>



<恒例の教育キャンプ>



<熱心に学習する公民講座>



<婦人幹部研修会風景>



<利用度の高まる町立図書館 救助袋>



<本年の成人式のひとコマ>



<県外の青年と交流する朝日町青年のバス研修会>



<日本最大といわれる不動堂遺跡>

<玉造り工房が発見された宮崎浜山遺跡>

<大集落群のあった下山新縄文遺跡>



# 懸賞論文

## 入選作



泊中学校一年

本村 雅宏

### 朝日町の将来

今、朝日町は、過疎化していつて  
いる。これは、朝日町では、あまり  
働き口がないからである。でもぼく  
は、大人になってもこの町を出て都  
会へ行こうとは思わない。なぜかと  
いうと、ぼくは、将来の朝日町に期  
待しているからだ。この町は、きっ  
ととっても住みやすい町となるでし  
ょう。

ぼくの思っていることは、まず観  
光地として知られるようになるだろ  
うということだ。第一に城山だ。た  
いへん多くの自然にめぐまれたこの  
山は、今でもたくさんの人に親しま  
れている。春は緑がさえ、秋は紅葉し  
てとてもきれいだ。また、城山の本  
丸よりながめる景色は、日本でも数  
少ない、海と山の雄大さを一度にな  
がめることができるすばらしいもの  
だ。今年、遊歩道ができその楽し  
みも二倍や三倍に増えたことだろ  
う。

第二に棚山だ。この棚山も多くの  
自然にめぐまれているが、ここは、  
もう大レジャーランドの建設が予定  
されている。ぼくは、くわしいこと  
は知らないが、ホテルやポート池な  
どができ、たいへん活気的なもの

なるそう。また今では、二、三軒  
の家しかないがレジャーランドと共  
に一つの部落みたいなのができて  
は、ないだろうか、それだけでは  
ない。このような大規模なものがで  
きれば必ずそのふもとの花房や南保  
また泊なども観光地の中心となり、  
栄えることはまちがいないだろう。  
また山が発展するだけでなくきつと  
この朝日町にある不動堂遺跡や鹿嶋  
樹林などの文化財も有名になってい  
くことだろう。

だが、ぼくは、こうゆう夢の中に  
秘かに思うことがある。それは、  
「このような大切な文化財、自然な  
どが傷つけられはしないか」と、い  
うことである。ぼくは、これが気が  
かりでならない、でも、やっぱり良  
い人たちやぼくたちが力になってそ  
のようなことのないように努力をす  
れば、きつと公害のようなことは、  
おこらないだろう。「そのために  
がんばらなくちゃ」と、ぼくは、思  
っています。

いつかおとうさんが話してくれま  
した。「この山々をこえて昔の人は、  
越後へ(新潟県)行って物を売ってま

た帰ってきては、生活をしていたそ  
うだ。それに前田の殿様は、この泊  
にご本陣をとっておられたそうだ。」  
この話を聞いて、ぼくは、この朝  
日町は、となりの県とを結ぶだとい  
な役わりを果していたんだなとい  
うことを思ったものです。今でもそう  
です。この朝日町から新潟県糸魚川市  
まで平野はありません。このため泊  
などは、栄えたんかと思えますが、  
物を運ぶ場合、この泊に一度立寄  
ってから糸魚川まで運びます。つま  
りとなりの県との関所のようなもの  
になっています。だから今後十年、  
二十年三十年たとうと、しくみは変  
わらないはず。証拠に北陸自動  
車道は、この泊にインターチェンジ  
ができる予定です。つまりこの町は  
富山県の東側の商品を新潟、長野、  
群馬などの県に運びだす町として  
どんどん栄えていくはず。ぼく  
の予想では、まず、国鉄の駅は、も  
っと大きくなり二十番ホームぐらい  
まででき、そのうち八番までが旅客、  
九番からは、貨物となるでしょう。  
この辺は、日東紡くらしいの工場  
ならまだまだたてられます。このこ  
とがもたらすものは、まず商店街の  
発展、工業の設立、山などで切った  
材木を運びだせるため林業などと大  
へん大きいようです。またこれだけ  
発達すれば、なにか大きな学校でも  
たつことでしょう。

たとえば、日大朝日高校とか、自  
然のもとで勉強しようということ  
筑波富山大学とか富山医科大学なん  
かもたつかもしれない。ぼくなん  
かは、大きな学校が建ったらその学  
校をめざして必死で勉強するかもし  
れませんが、また今、富山湾沿岸の人  
々を困らせている浸食の問題など  
は、よい学校で研究されたことでふ  
せげるかもしれない。なにしろこ  
の朝日町は、県境の町として栄えて  
いくことでしょう。

海は、限らないものをたくさんも  
っています。その限らないものを利  
用することは、できるかもしれませ  
ん。いや、できるのです。前のよう  
に次々に発展を重ねていった朝日町  
ならおそらくできるでしょう。まず  
海からエネルギーをとることができ  
るでしょう。今でも外国では、やつ  
ているところがあります。それで  
す。潮流発電や波力発電です。しか  
もこれをとても高性能にしたものが  
できることだろう。たとえばちよつ  
とした潮の動きにも作動して一日に  
何億キロヘルツの電気をつくること  
でしょう。また宮崎のほうでは、裁  
培漁場を作り、さばやぶり、かつお  
などの、この辺では、あまりとれな  
いような、魚などを飼育して、漁を  
時々しなくてもよいように、漁を  
ができるように生活にも困ることは、  
おそらくないだろう。またぼくは、  
人工の島を作りそこでHAMU(ア  
マチユア無線)などの設備を用意し  
て世界との関係を高めると、きつと  
よいこと(なにかわからないが)が  
あると思う。でもこれは、あくまで  
夢であるが、近い将来実現するかも  
しれない。

ぼくがいちばん期待をかけている  
のは、SKI(スキー)である。去  
年より今年にかけて三峰スキー場は  
大改善された。また、ロープだけど  
りフトもついた。それだけでない。  
コースは、広げればすごいものにな  
り練習にはもってこいの場所となる  
のだ。ここは、もうすぐ、南保から  
と笹川から自動車道もつくはずだ。  
そして池の原には、旅館などもつく  
ればたいへんよいところとなるはず  
だ。となると三峰だけでは、たりな  
くなるからまわりの山もスキー場に  
して大きなスキー場を作ればきつと  
たくさんの方がきてすべっていつて  
くれると、ぼくたちもうれしい。ま  
たぼくたちも練習して上手になれば  
一石二鳥だ。

こうしてどんどん発達すると、きつ  
と将来は新幹線ぐらゐとまり、また  
大きな工業や横浜に負けないような  
港ができ、たくさんの人々が来てと  
ても活気的な、明るく、平和で自然  
に恵まれた町となることでしょう。  
きつと……。 終 (原文のまま)

### 論文入選作評

入選作に推された本村雅宏君  
の論文は、文章もしっかりして  
おり、すじもとおっていて、子  
どもらしいビジョンがえがかれ  
ています。

朝日町の将来についても各方  
面に亘って万遍なく夢をひろげ  
てゆき中学生らしくよくまとめ  
られています。



# ご寄付のお礼

## 学校設備教材備品等の寄付者芳名

- 五箇庄小学校(九十周年)
- (その3)
- 五箇庄小学校校友会
  - 五箇庄小学校PTA
  - 齊藤久雄 東京都
  - 西井昭夫 月山
  - 金井はな 釧路市
  - 西村清治 東京都
  - 篠田哲夫 東京都
  - 篠田憲治 赤川
  - 篠田栄 草野
  - 折戸彰 草野
  - 谷武古 赤川
  - 高林なつ 赤川
  - 七沢よしあ 東京都
  - 朝日車両 桜野
  - 迫分光成 桜野
  - 勝田武夫 桜野
  - 館尋司 桜野
  - 金井長吉 本町
  - 広田ちよ 草野
  - 水野憲治 月山
  - 沢田義一 桜野
  - 鍛治菊一 桜野
  - 南茂昭三 桜野
  - 南部菊松 桜野
  - 西井雅邦 月山
  - 西村竜三 月山
  - 永井浩 月山

### 泊小学校へ

- 泊小学校教育振興会からエレク  
トーン一台)
- ・横尾 水野忠明氏からガス栗焼窯一台
  - ・平柳 米田謙治氏から視力検査器一台
  - ・デスクオルガン
  - 平柳 寺田幸男氏から二台
  - 東京部 松倉昭二氏から一台
  - 沼保 泉 義治氏から一台
  - 沼保 小林三三氏から一台
  - 平柳 松倉彰夫氏から一台
  - 平柳 米丘敬明氏から一台
  - 沼保 楠木利雄氏から一台
  - 沼保 小沢 弥氏から一台
  - 平柳 折谷和男氏から一台
  - 破竹会(代表山本明氏)から一台
  - 泊 松原隆一氏から薬焼小屋

### 一般寄贈

- 上野良雄 月山
- 西田鉄夫 月山
- 吉江輝寛 草野
- 篠田峰次 草野
- 大沢輝雄 草野
- 古江幸雄 草野
- 広田啓作 赤川
- 窪田関松 赤川
- 岡島睦夫 赤川
- 岸住子 東京都

**おわび**

第二二八号を朝日町発足二十周年記念特集号として編集したため一般記事は、特別なもののほか次の号へ廻すことになりましたのでご了承をおねがいいたします。 編集委員会

## 善意の預託

### 朝日町善意銀行

社会福祉の増進のため、次のかたがたから、朝日町善意銀行へ貴重な善意を預託されました。

ここに厚くお礼申しあげます。

拾五万円也

水島信一殿

亡くなられた御母堂山崎よそさんの供養と社会福祉のために預託されたもの

(前号けいさいの分は金額に誤りがあったので再掲訂正します)

五千元也

泊婦人会殿

会員のみなさんが不用品持ち寄りセールを行ったその益金を社会福祉のために持参されたもの

九千八百八拾円也

入善ポウル殿

交通道児チャリティショーを催したその益金を社会福祉のために預託されたもの

衣類 六十五点

笹川 長井保正殿

恵まれない人達にあげて下さいと学童服やシャツ等の衣料品を持参預託されたもの

衣類 二十六点

とく 名殿

恵まれない人達のために役立てて下さいと持参されたもの

## おめでたとおくやみ

(昭和四十九年七月十五日現在)

### 出生 (おすこやかに)

- 元屋敷 近江正幸 二女 香里
- 泊 草野誠治 二男 秀実
- 平 坂東米夫 長男 智昭
- 平 北沢信彦 長女 智香
- 荒 岡本亘正 長女 喜美
- 荒 野末健二 長男 雅寛
- 荒 上出一郎 三女 恵美子
- 道下 平崎良雄 長男 大治
- 東草野 門 俊之 三男 裕之
- 東草野 大和信勝 長男 義英
- 東草野 寺崎俊雄 二男 久史
- 東草野 松岡二三男 長女 泉
- 月山 西田滝憲 長女 千泉
- 桜町 金沢一男 長男 郁男
- 桜町 浜浦芳夫 長男 誠
- 赤川 浜川勝輝 二男 和哉
- 南保 越間松三 二男 女
- 山崎 七沢 寛 長男 慎陽
- 殿町 本田 齊 二男 雅史
- 大家庄 杉本宏一 二男 昭宏
- 三校橋 前川昭浩 長女 佳澄
- 横水 沢井清範 長男 崇慶
- 横水 広川親安 長女 環
- 下野 小川寿人 長男 長亮
- 下野 吉田俊孝 二男 俊之

### 結婚 (おしあわせに)

- 境 青海町 水島盛康
- 宮崎 田中利度
- 宮崎 加藤貞子

### 死亡 (おくやみ申しあげます)

- 南保 江淵洋一
- 荒川 川合直子
- 宮崎 小森之夫
- 滑川市 石倉峰子
- 宮崎 加藤ツヨ(69)
- 笹川 折谷れい(81)
- 沼保 平沢ちよ(81)
- 荒川 南保克治(28)
- 南保 道用ちい(90)
- 南保 小坂米吉(67)
- 南保 川合忠次(78)
- 蛭谷 長崎のせ(62)
- 蛭谷 清水ゆき(76)

### 7月の町内交通事故数

月	件数	死者	負傷者
1月~6月	36	0	46
7月	12	0	5
本年累計	48	0	51



編集兼発行 朝日町役場  
印刷所 高田印刷  
送料 十二円  
定価 六円  
郵便番号 九三九一〇七